

適用機種
CB250R

グリップヒータアタッチメント 取付説明書

販売店様へ

この取付説明書は、必ずお客様にお渡しください。

お客様へ

この取付説明書は、必ず保管してください。

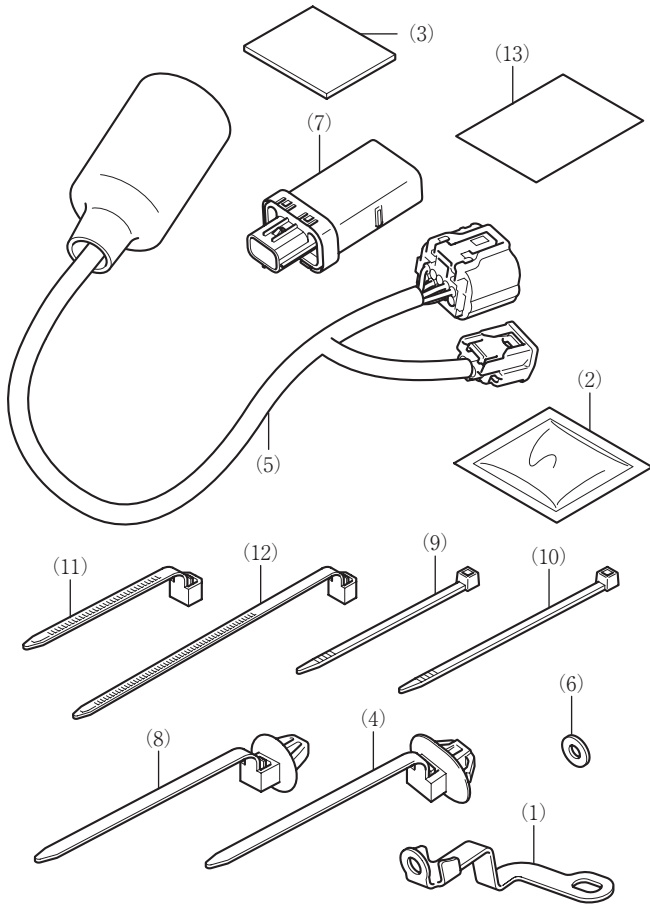
シンボルマークについて

下記のシンボルマークは、本書を通して作業上の注意事項を表示しています。

- 危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
- 警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性のあるもの
- 注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの
- アドバイス** お車と用品のために守っていただきたいこと
- 知識** 知っておいていただきたいこと知っておくと便利なこと

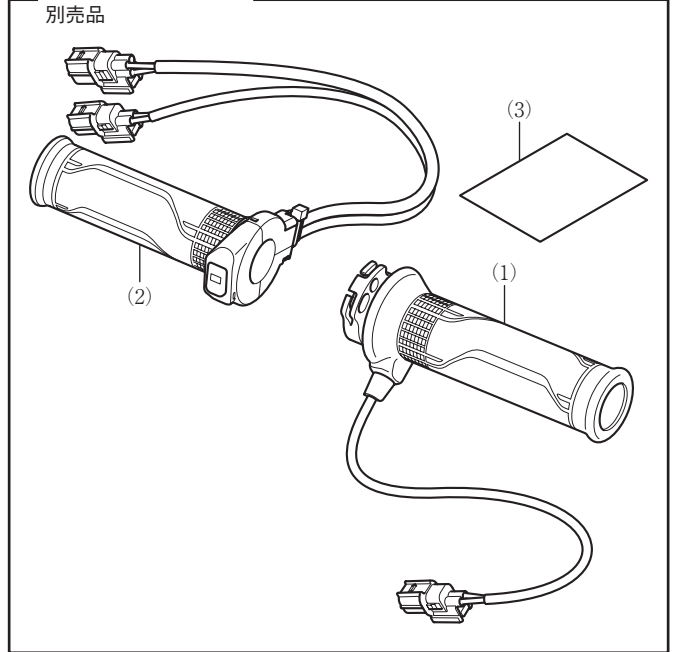
構 成 品

取扱説明書及び取付要領書が同梱されているときは、必ずお客様にお渡しください。



見出し番号	部品名称	個数
(1)	クランプ	1
(2)	プライマ	1
(3)	両面テープ	2
(4)	クリップバンド (長)	1
(5)	グリップヒータサブハーネス	1
(6)	ワッシャ	1
(7)	ヒータコントローラ	1
(8)	クリップバンド (短) (使用しません。)	1
(9)	ハーネスバンド (細 / 短)	6
(10)	ハーネスバンド (細 / 長)	6
(11)	ハーネスバンド (太 / 短)	6
(12)	ハーネスバンド (太 / 長)	3
(13)	URL ペーパー	1

グリップヒータキット 別売品



見出し番号	部品名称	個数
(1)	右側グリップヒータ	1
(2)	左側グリップヒータ	1
(3)	URL ペーパー	1

必 要 工 具

- ・ マイナス配線ドライバ
- ・ ニッパ
- ・ マーカ
- ・ 定規
- ・ はさみ
- ・ グリース
- ・ Honda ボンド A
- ・ ネジロック剤
- ・ 脱脂洗浄剤 (イソプロピルアルコール)
- ・ ウェス
- ・ 車両の部品の取り外し、取り付けに必要な工具は、サービスマニュアルを参照してください。

トルクについて

- ・車両の部品の締め付けトルクはサービスマニュアルを参照してください。

取付について

⚠警告

- ・各スクリュー、ボルト、ナットは確実に締め付けてください。締め付けが不確実なときは走行中に脱落し、運転者または後続車の乗員や歩行者を死亡または重大な傷害に至らしめる可能性が高くなります。
- ・フューエルタンクの取り外し、取り付けには十分に注意し、サービスマニュアルを参照の上作業をしてください。ガソリンは非常に引火しやすいため、火の気のない場所で作業してください。電気のスパークによる火花にも十分に注意してください。また、蒸発（気化）したガソリンは爆発の危険もあるため、通気のよい場所で作業してください。
- ・スロットルケーブルを車両から取り外すときは、プライヤなどで無理に外さないでください。スロットルケーブルが折れ曲がり、スロットルの戻り不良が原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
- ・左側グリップヒータとハンドルの接着を確実にを行うために必ず指定の接着剤（Honda ボンド A）を使用し、接着されるまで乾燥させ、必ず確実に接着されているか確認してください。指定外の接着剤を使用したり、十分な乾燥時間をとらないと走行中にグリップヒータが外れることが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
- ・右側グリップヒータを車両に取り付けたときは必ずスロットルの開閉を行い、引っかかりが無いを確認してください。確認をおこたると、スロットルの戻り不良が原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

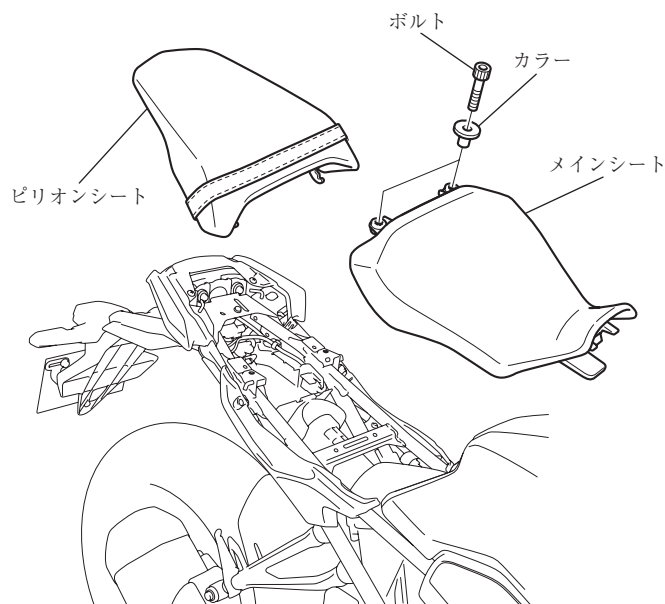
⚠注意

- ・取り付け作業はエンジン、マフラーが完全に冷えてから行ってください。高温のまま作業を行うと、火傷などを負う可能性が高くなります。
- ・アラームまたはイモビアラーム、アクセサリソケット、ETC 車載器との同時装着は、本書とそれぞれの取付説明書を参照してください。
- ・ETC 車載器装着車に取り付けるときは、本用品を取り付ける前に ETC 車載器を一度取り外す必要があります。
- ・取り付けは、必ずバッテリーケーブル（-）を外してから行ってください。
- ・バッテリーを外すと、時計などがリセットされるので再度設定してください。
- ・取り外した部品は、元の仕様に戻すとき必要になりますのでお客様にお渡しください。
- ・外装部品などの再取り付け時、配線類のかみ込みがないことを確認してください。
- ・ハーネスバンドの余った部分はカットしてください。また、カットした部分が他のハーネスやブレーキパイプなどに干渉しないようにしてください。
- ・取り付け完了後、灯火器（ヘッドライト、左右のウインカ、ブレーキライト）の作動確認およびスロットルグリップの引っかかりが無いことを確認してください。

取付方法

1. 車両部品の取り外し

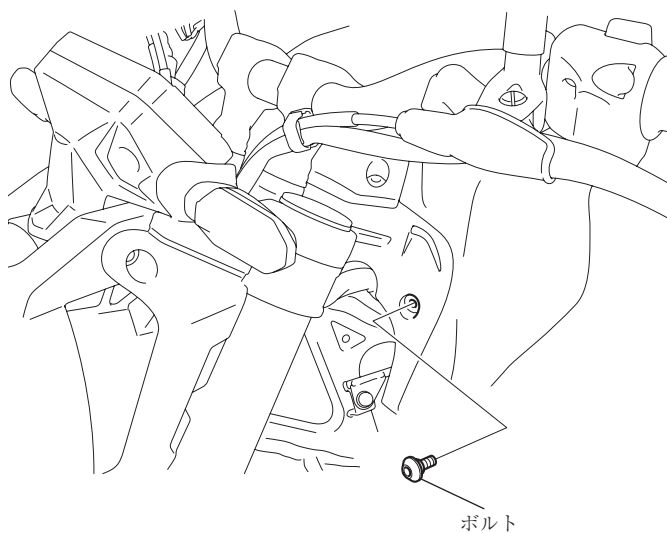
- 1) 図のようにピリオンシート、メインシートを取り外す。



- 2) 図の部品を取り外す。

- ・右側も同様に取り外してください。

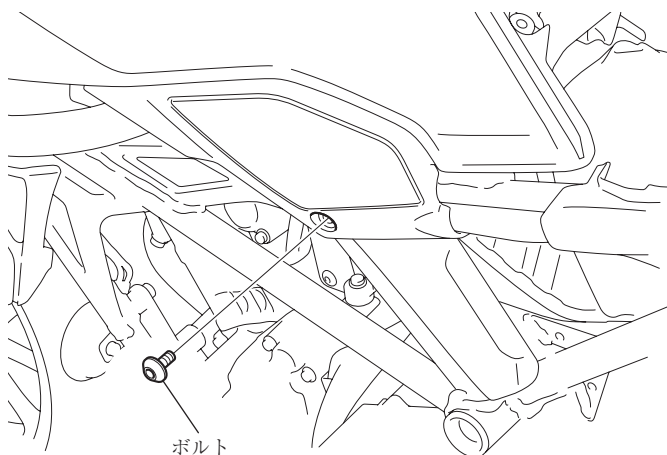
〈左側〉



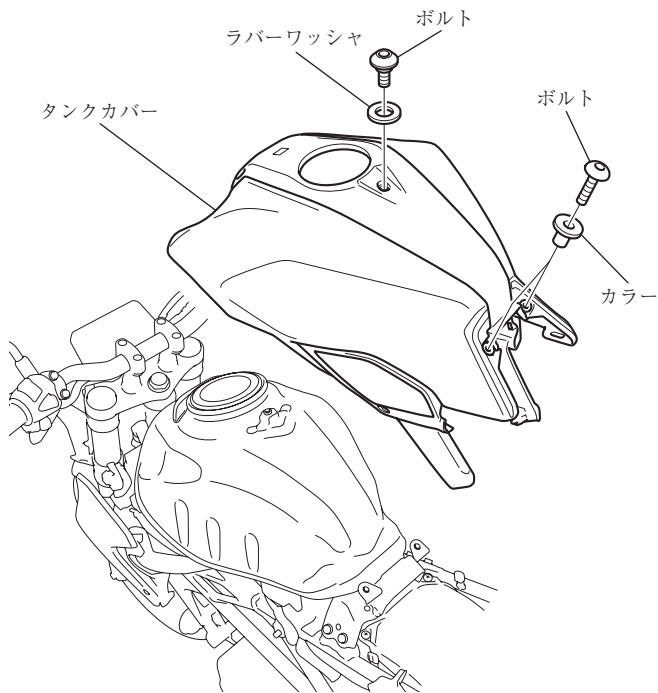
- 3) 図のボルトを取り外す。

- ・右側も同様に取り外してください。

〈左側〉



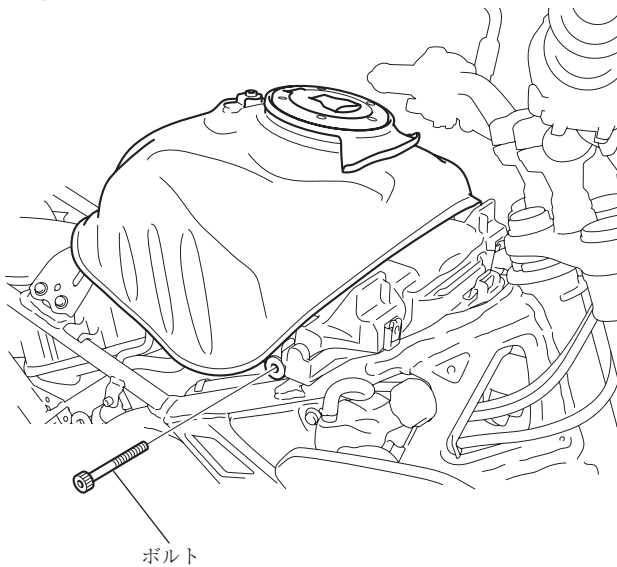
4) 図のようにタンクカバーを取り外す。



5) 図のボルトを取り外す。

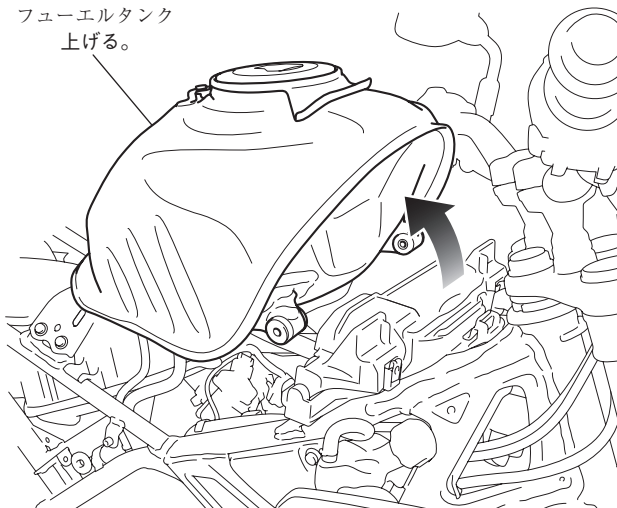
・左側も同様に取り外してください。

〈右側〉



6) 図のようにフューエルタンクを上げる。

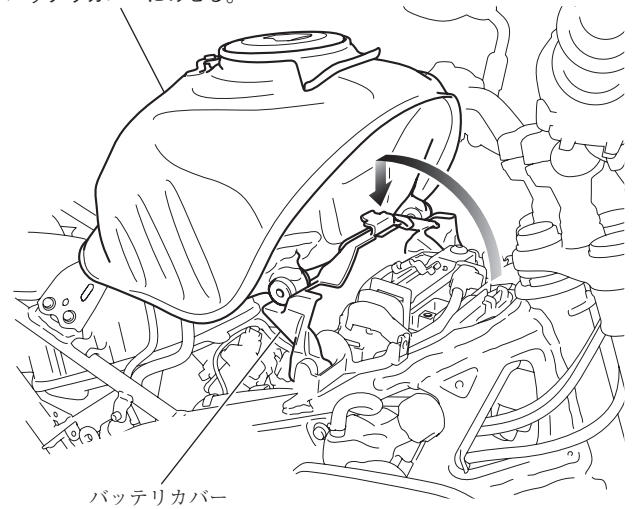
フューエルタンク
上げる。



7) 図のようにバッテリーカバーを開け、バッテリーケーブル(-)を取り外す。

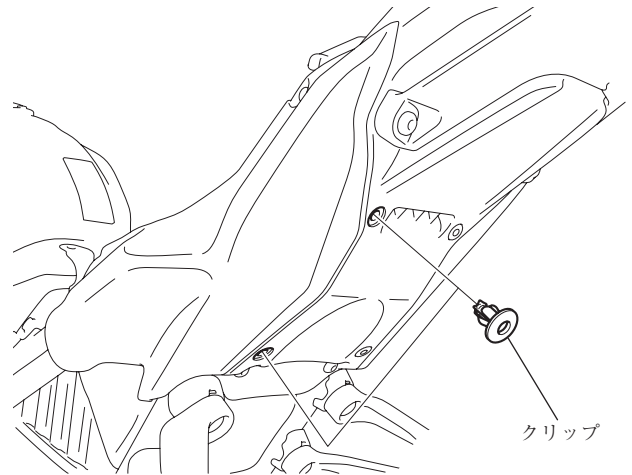
・持ち上げたフューエルタンクはバッテリーカバーにのせてください。

フューエルタンク
バッテリーカバーにのせる。

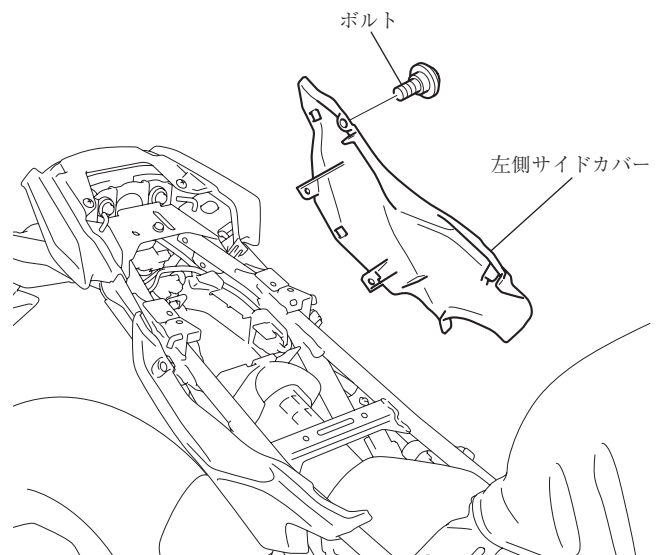


8) 図のようにクリップを取り外す。

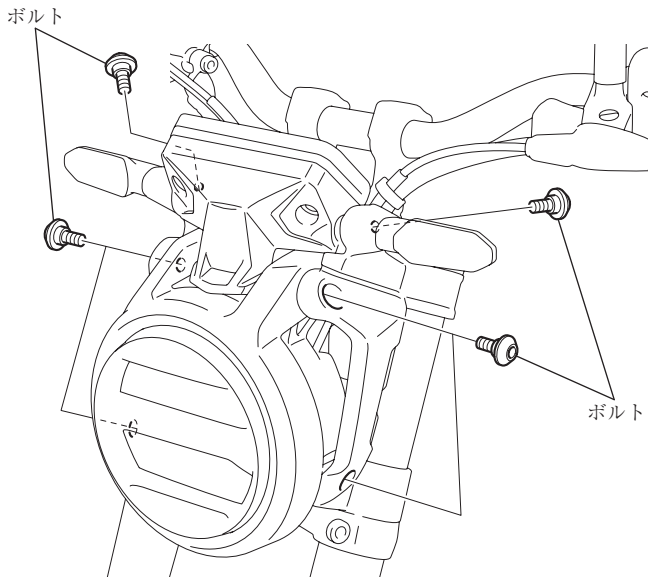
〈左側〉



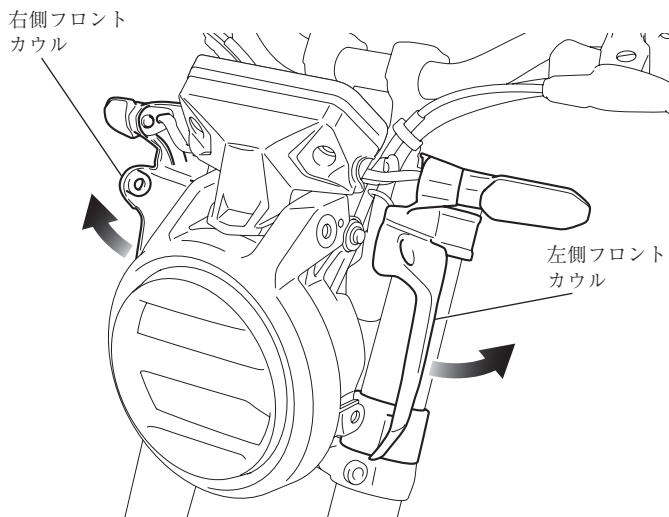
9) 図のように左側サイドカバーを取り外す。



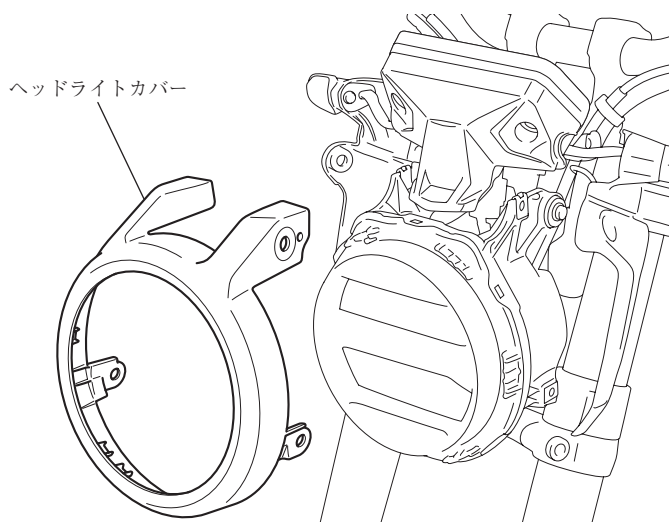
10) 図のボルトを取り外す。



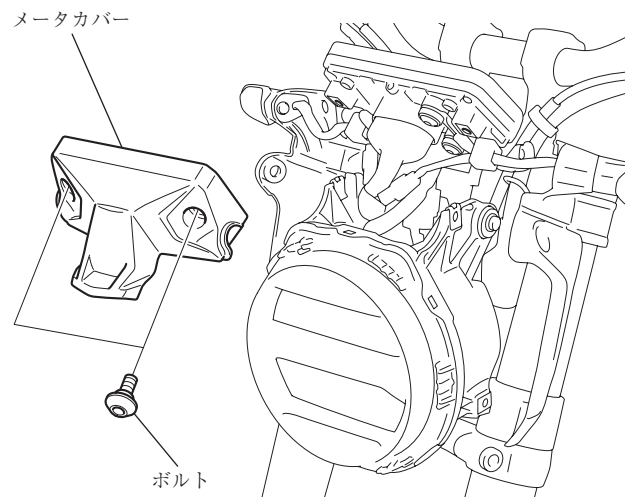
11) 図のように左右のフロントカウルを広げる。



12) 図のようにヘッドライトカバーを取り外す。



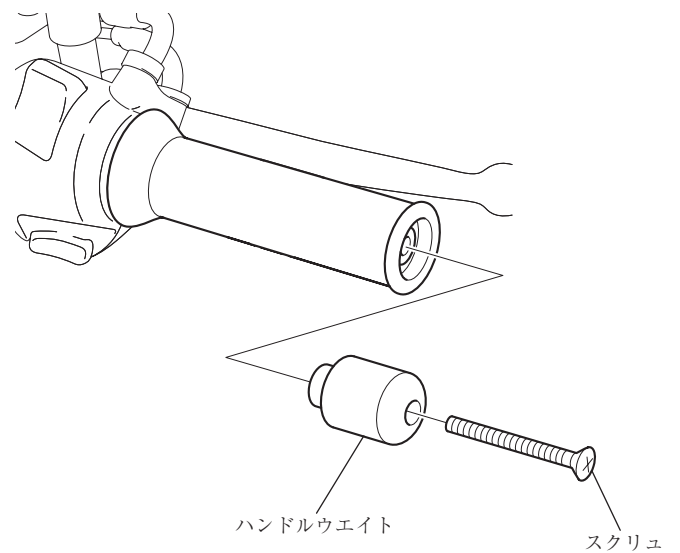
13) 図のようにメータカバーを取り外す。



14) 図のようにハンドルウエイトを取り外す。

・左側も同様に取り外してください。

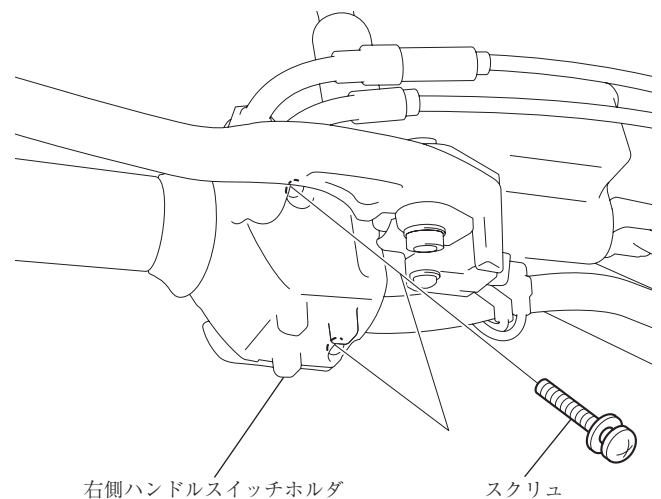
〈右側〉



2. 右側グリップヒータの取り付け

1) 図のスクリュを取り外す。

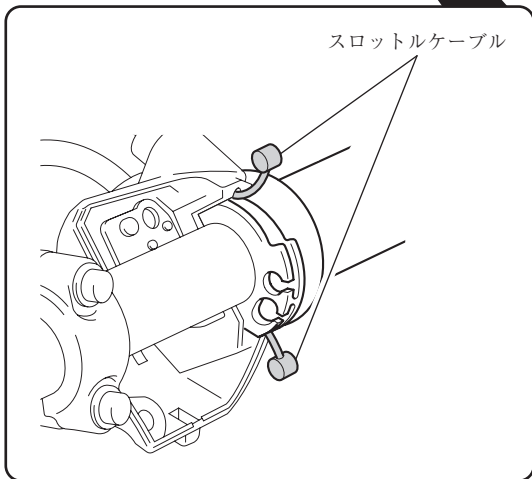
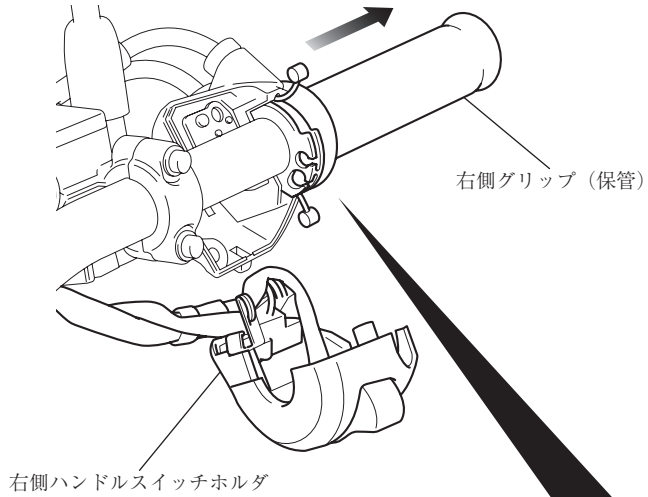
〈右側〉



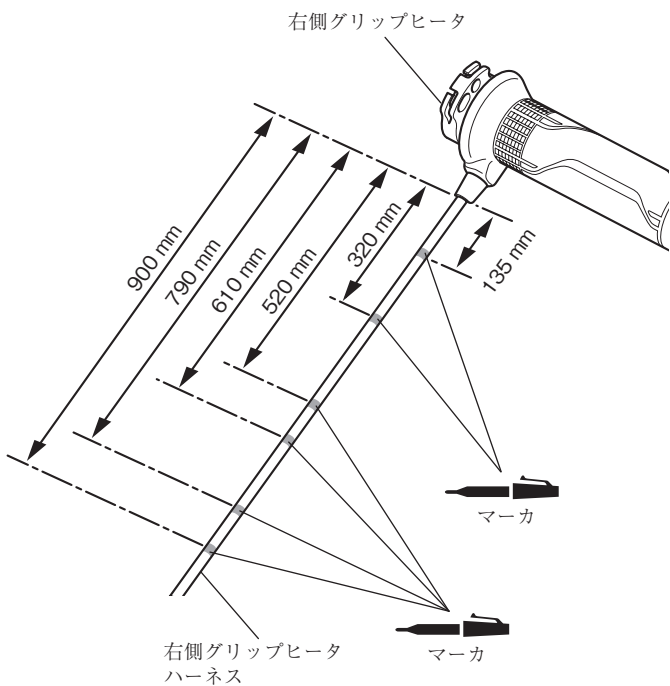
2) 図のように右側グリップを取り外す。

警告

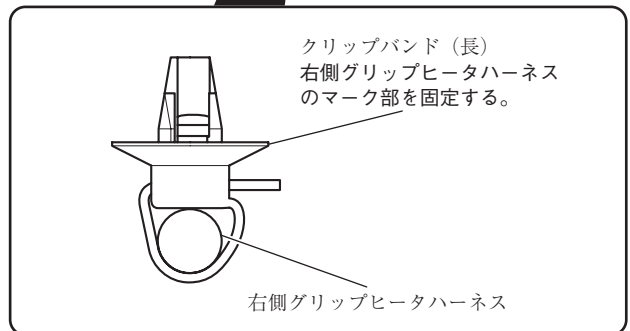
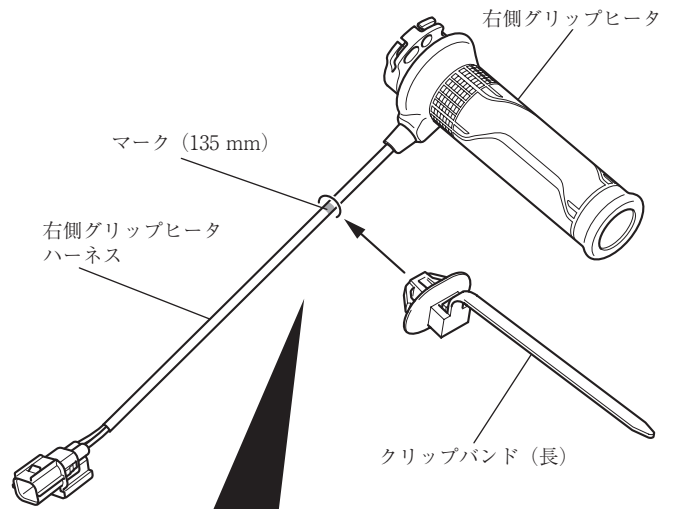
- ・ スロットルケーブルを右側グリップから外すときは、プライヤなどで無理に外さずに必ず車両のサービスマニュアルを参照してください。
無理にプライヤなどで外すとケーブルが折れ曲がり、スロットルの戻り不良が原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。




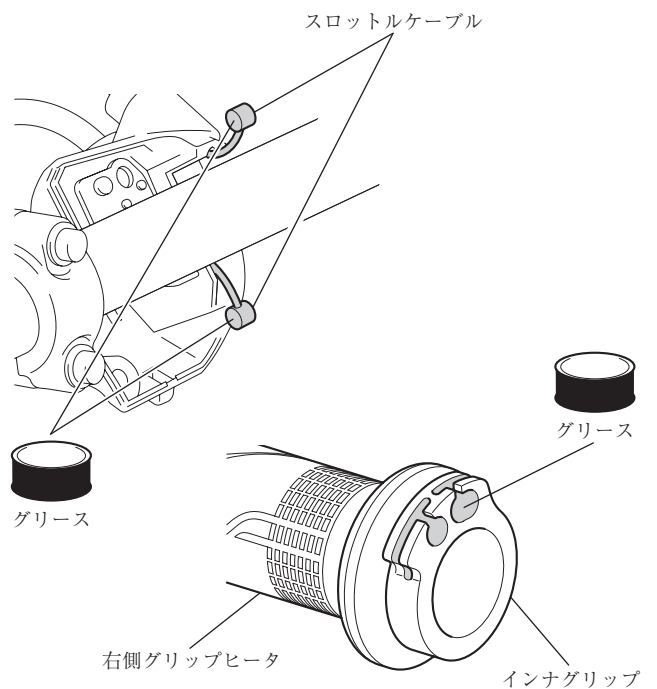
3) 図の寸法で右側グリップヒータハーネスにマークを付ける。



4) 図のようにマーク部にクリップバンドを取り付ける。

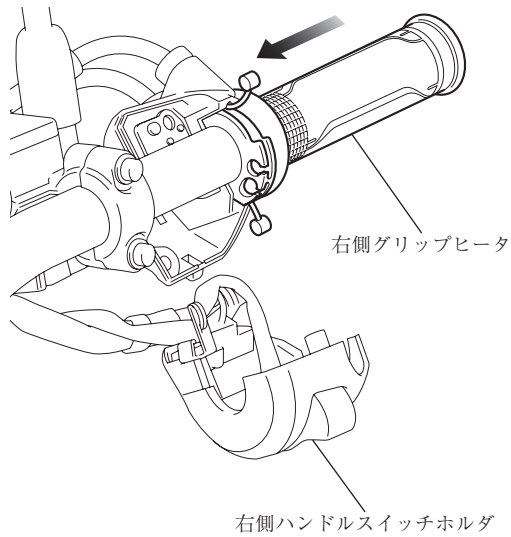


5) 図の  部にグリースを塗布する。



6) 取り外しの逆手順で右側グリップヒータ、右側ハンドルスイッチホルダを取り付ける。

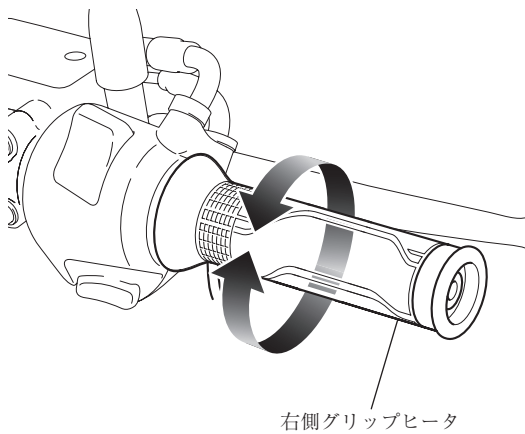
- ・取り付け後、サービスマニュアルを参照してスロットルの遊びを調整してください。



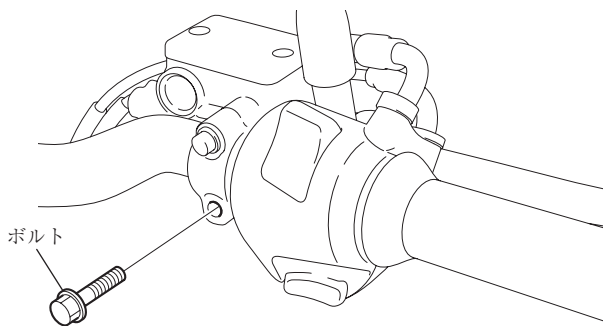
7) 図のようにスロットルの開閉を行う。

- ・開閉がスムーズに行われるか確認してください。

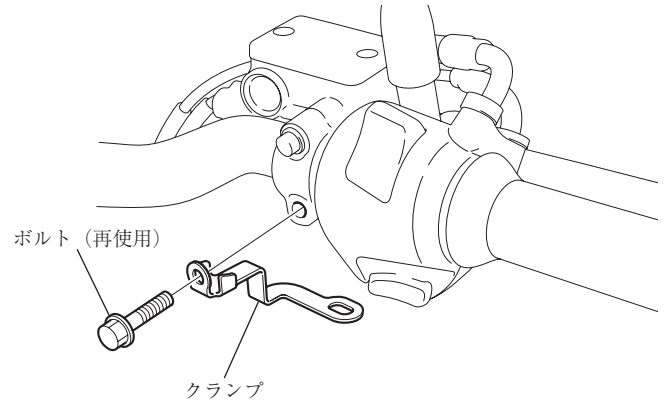
〈右側〉



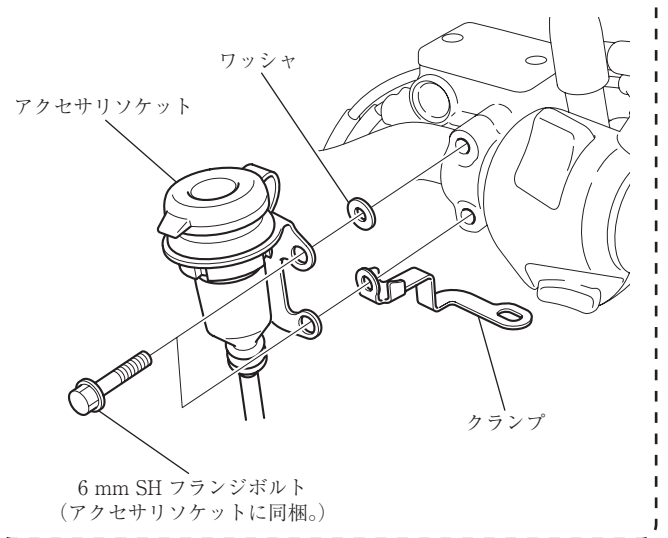
8) 図のボルトを取り外す。



9) 図のようにクランプを取り付ける。



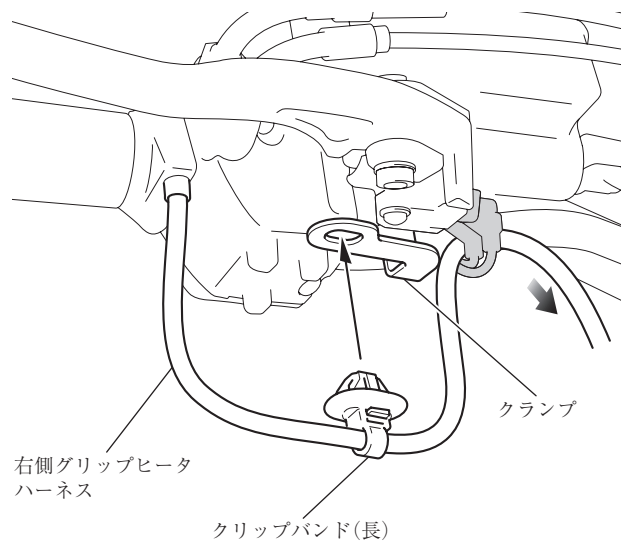
アクセサリソケット同時装着時



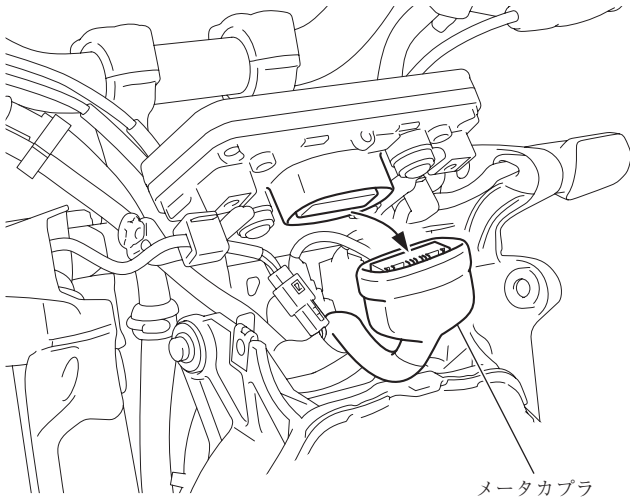
10) 図のように右側グリップヒータハーネスを取り廻し、クランプに固定する。

- ・スロットルの開閉を行い、グリップヒータハーネスの引きつりがないことを確認してください。

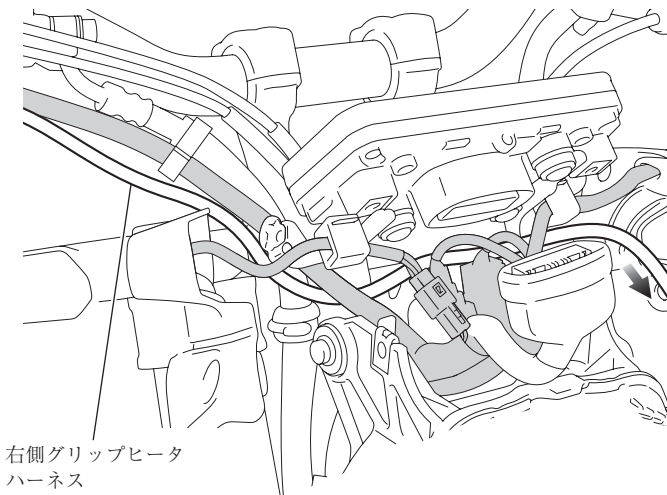
〈右側〉



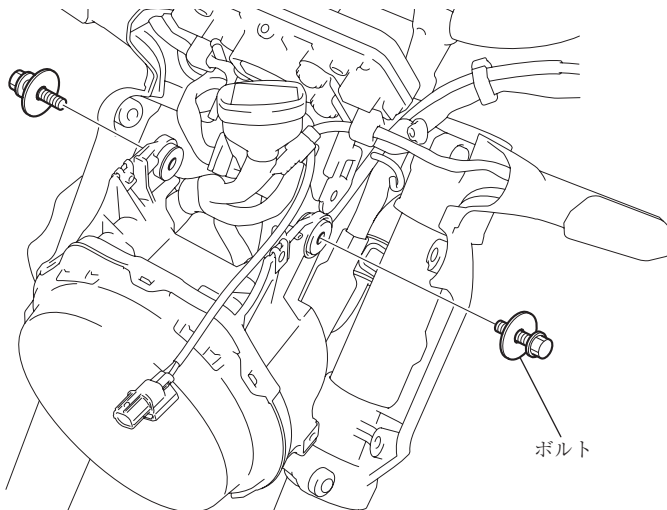
11) 図のようにメータカプラを取り外す。



12) 図のように右側グリップヒータハーネスを取り廻す。

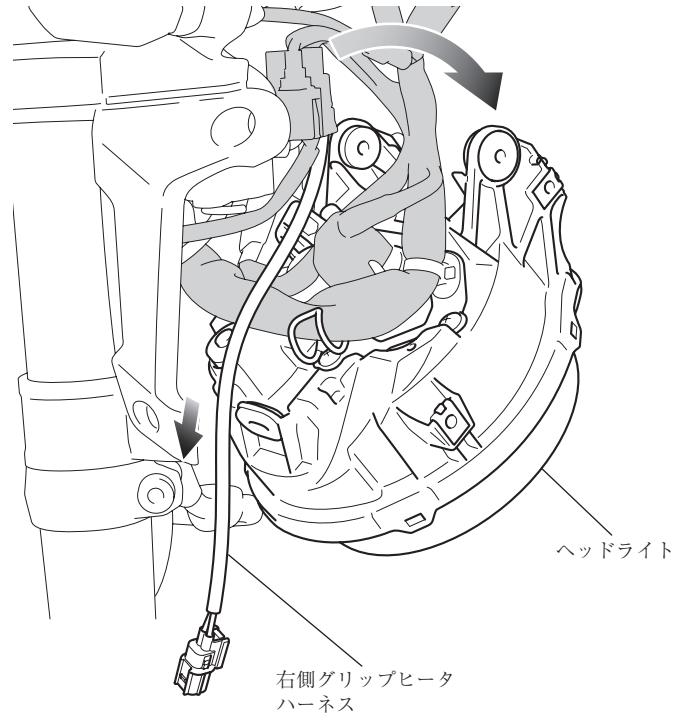


13) 図のようにボルトを取り外す。



14) 図のようにヘッドライトを取り外し、右側グリップヒータハーネスを取り廻す。

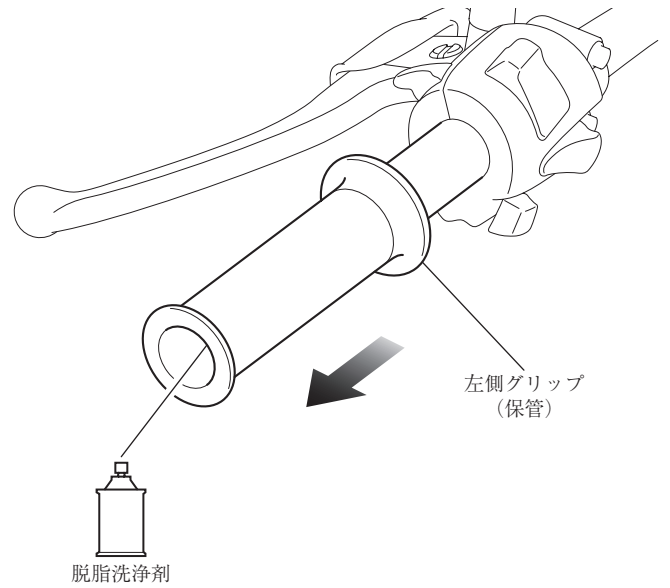
〈右側〉



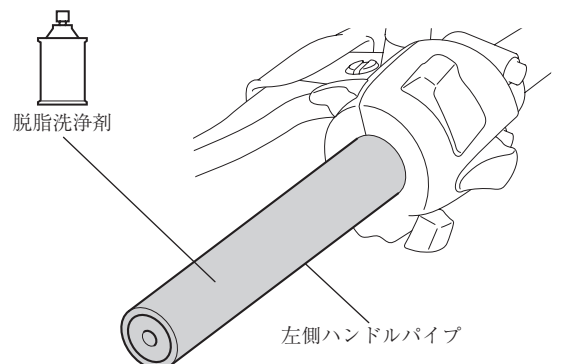
3. 左側グリップヒータの取り付け

1) 図のように左側グリップを取り外す。

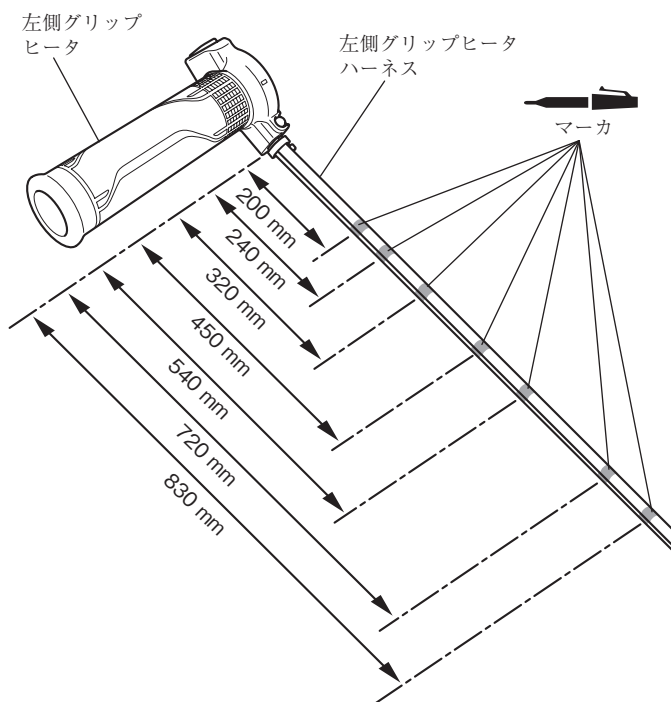
〈左側〉



2) 脱脂洗浄剤を使用し、左側ハンドルパイプに付いている接着剤を取り除く。



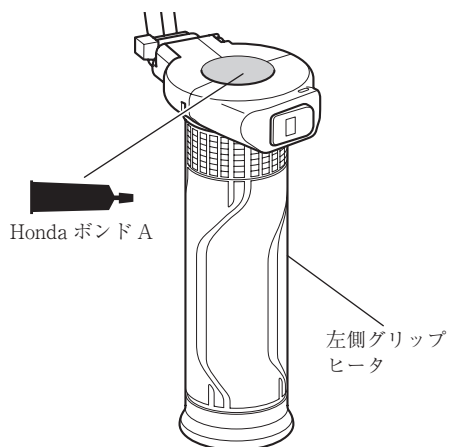
3) 図の寸法で左側グリップヒータハーネスにマークを付ける。



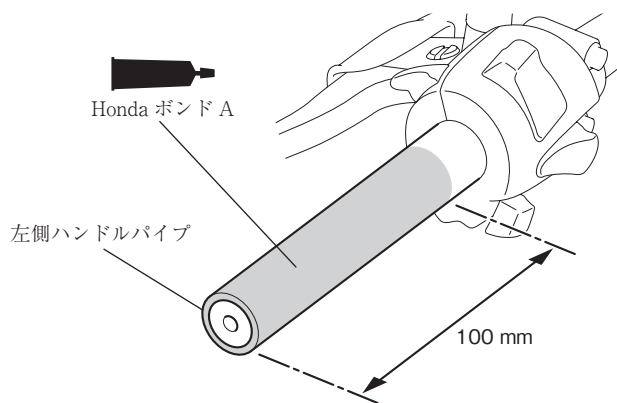
4) 左側グリップヒータの穴周辺に Honda ボンド A を多めに塗布する。

🏍️ アドバイス

・手順 4) ~ 7) は、作業内容を一読し全て確認してから、接着剤が乾かないうちに作業してください。また、車両が倒れないように補助を一人付けてください。

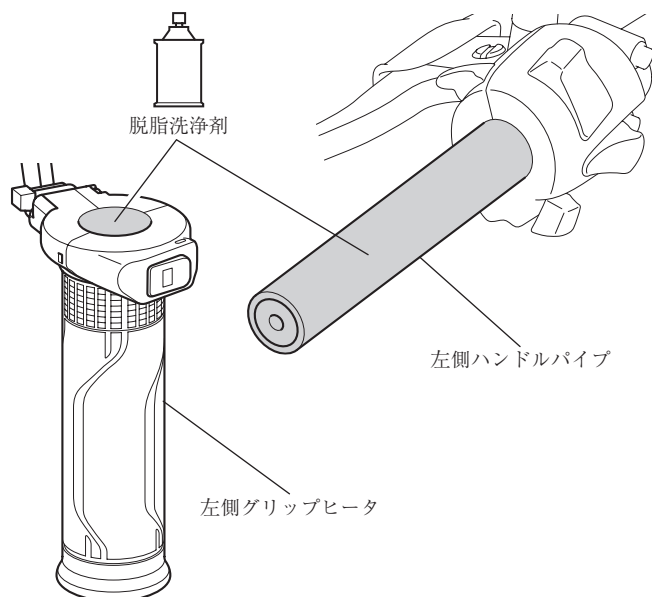


5) 図のように左側ハンドルパイプに Honda ボンド A を塗布する。



6) 脱脂洗浄剤を左側グリップヒータ内周面、左側ハンドルパイプ外周面にスプレーする。

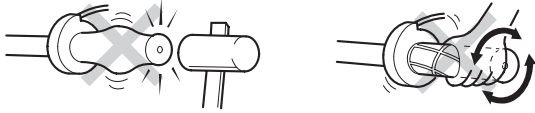
・取り付け位置を合わせやすくするために行います。



- 7) 図の位置に左側グリップヒータを取り付ける。
- ・グリップの取り付けは、必ず二人作業で行い、一人が車両を支え、もう一人がグリップを取り付けてください。
 - ・はみ出た接着剤は拭き取ってください。

🔧 アドバイス

- ・グリップヒータを挿入するとき、「グリップエンドをハンマでたたく」「グリップを強くねじる」などは行わないでください。グリップヒータ内で断線する恐れがあります。



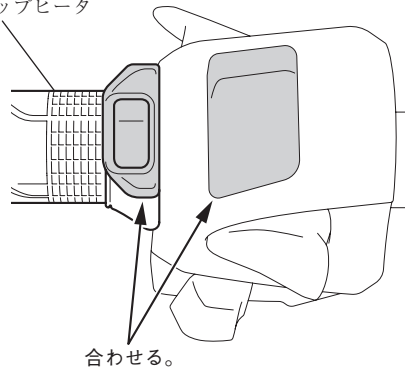
- ・左側グリップヒータを挿入するとき、スイッチ部を押しての挿入は行わないでください。スイッチ部が破損する恐れがあります。また、スイッチホルダとの隙間がないように取り付けてください。



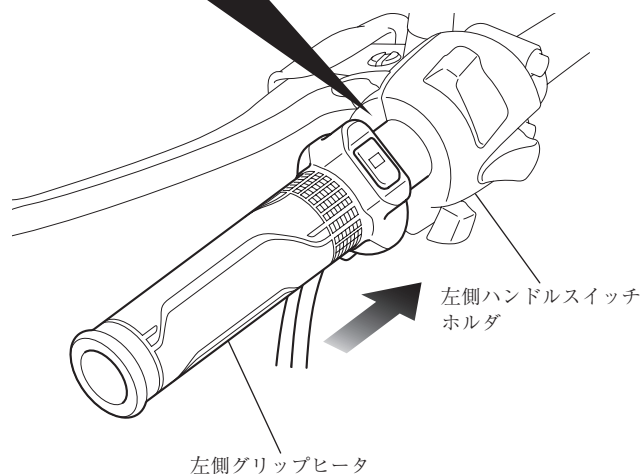
- ・万一、グリップヒータが途中で入らなくなったときは、グリップヒータとハンドルパイプの隙間に脱脂洗浄剤を入れて取り外してください。無理に配線ドライバなどでこじ開けると、グリップヒータ内で断線する恐れがあります。
- ・左側グリップヒータ取り付け後、最低でも1時間は左側ハンドルに触れないでください。また、ヒータースイッチをONにしないでください。

ハンドルスイッチホルダに当たるまで差し込み、図の位置に合わせる。

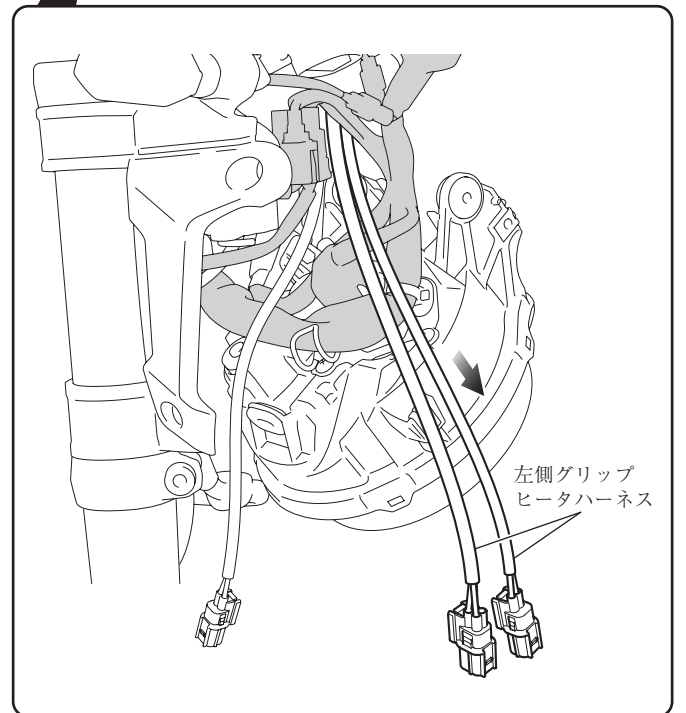
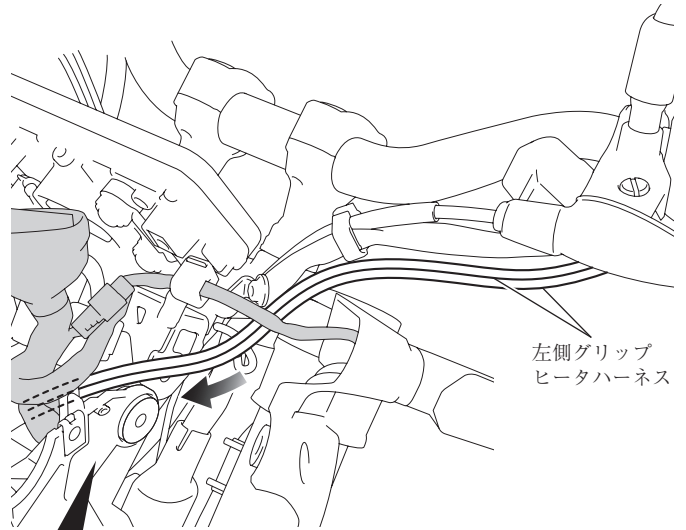
左側グリップヒータ



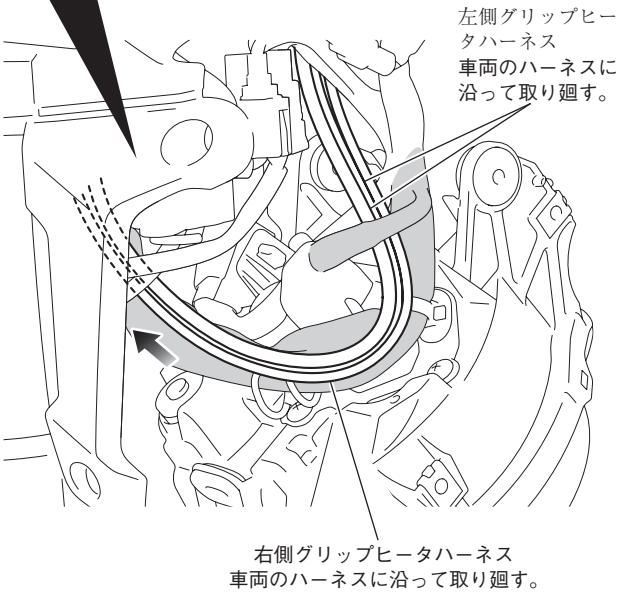
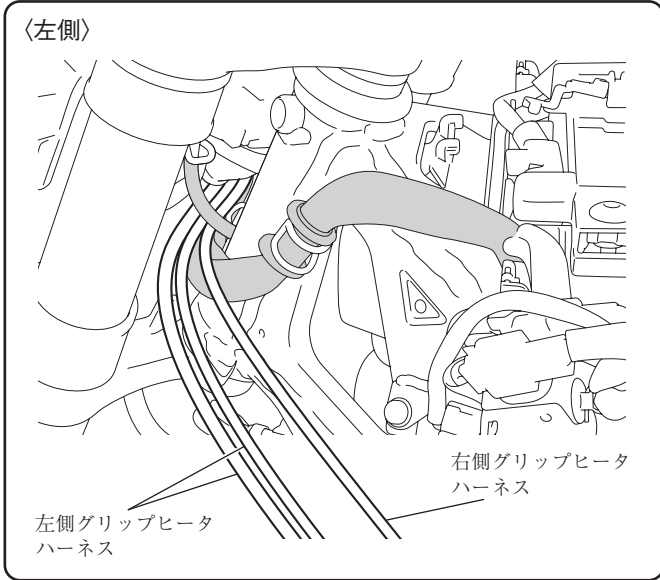
合わせる。



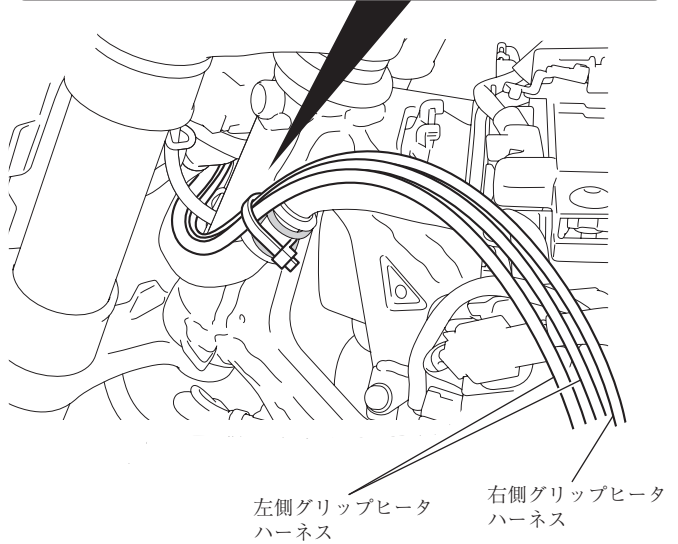
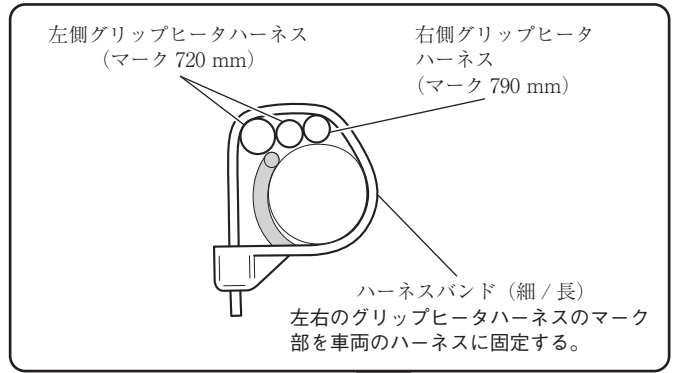
- 8) 図のように左側グリップヒータハーネスを取り廻す。
〈左側〉



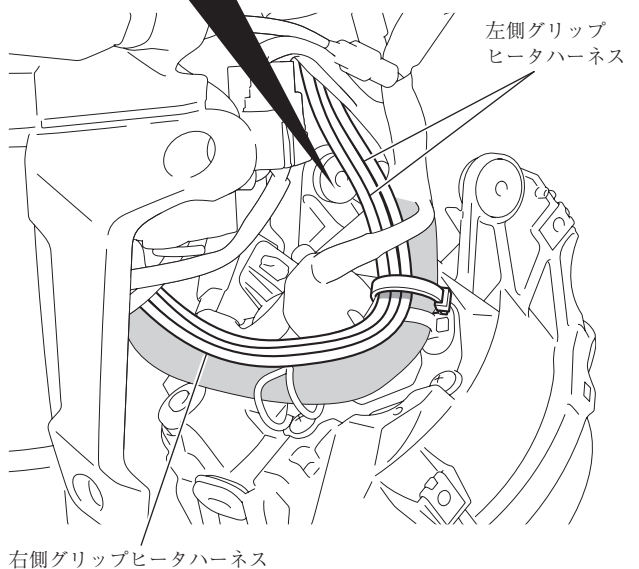
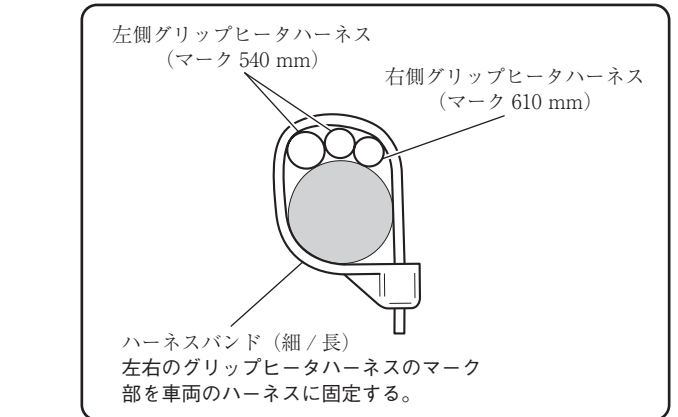
4. 左右のグリップヒータハーネスの取り廻し
 ・フューエルタンクを上げての作業は、必ず二人作業で行い、一人がタンクを支え、もう一人がハーネスの取り廻しを行ってください。
- 1) 図のように各ハーネスを取り廻す。



- 2) 図のように各ハーネスをバンドで固定する。
 〈左側〉



- 3) 図のように各ハーネスをバンドで固定する。

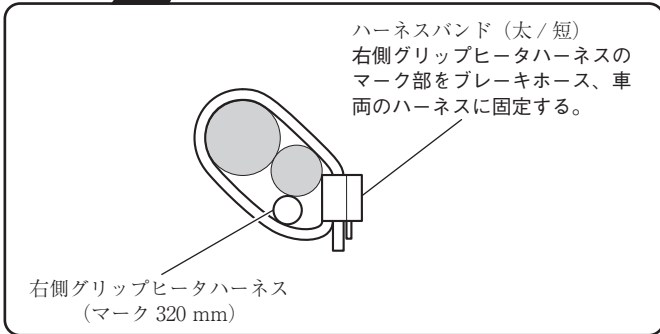
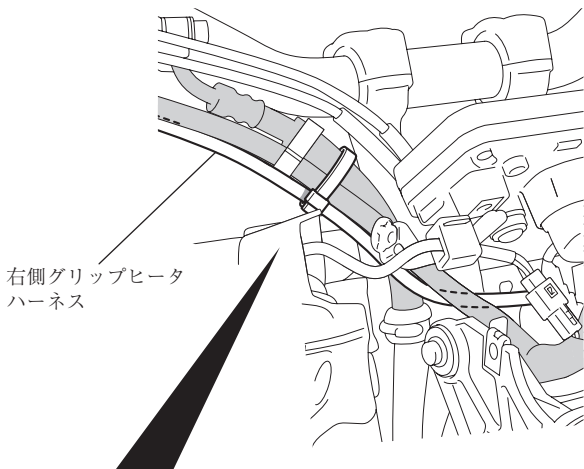


4) 取り外しの逆手順でヘッドライト、メータカバーを取り付ける。

・ハンドルを左右に動かし、ハーネスのかみ込み、引きつりが無いことを確認してください。

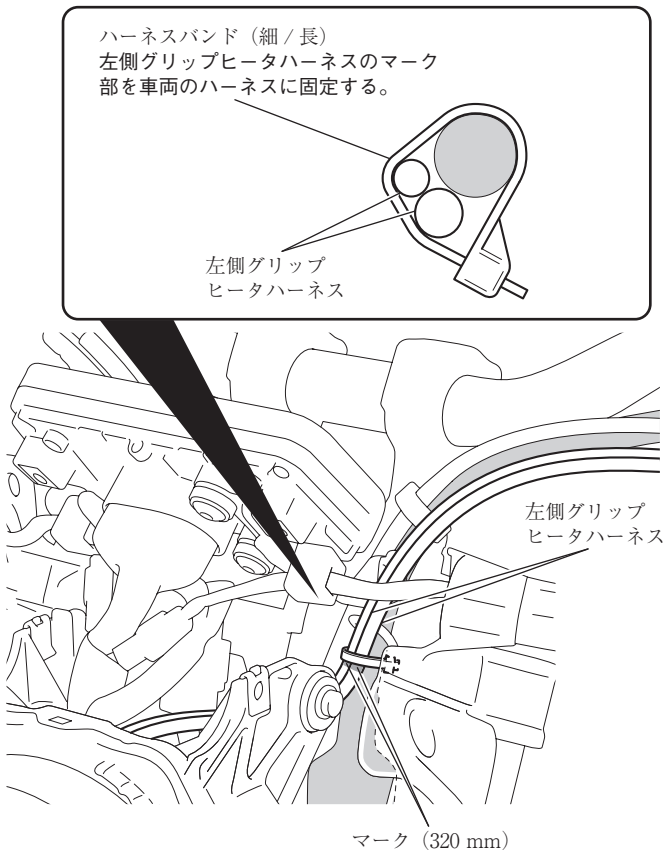
5) 図のように右側グリップヒータハーネスをバンドで固定する。

〈右側〉

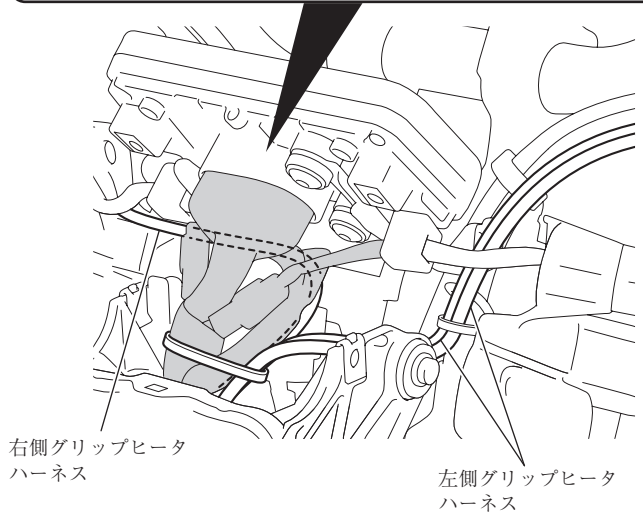
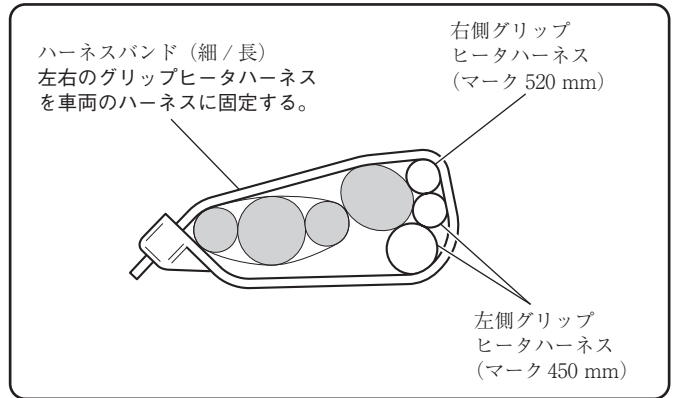


6) 図のように左側グリップヒータハーネスをバンドで固定する。

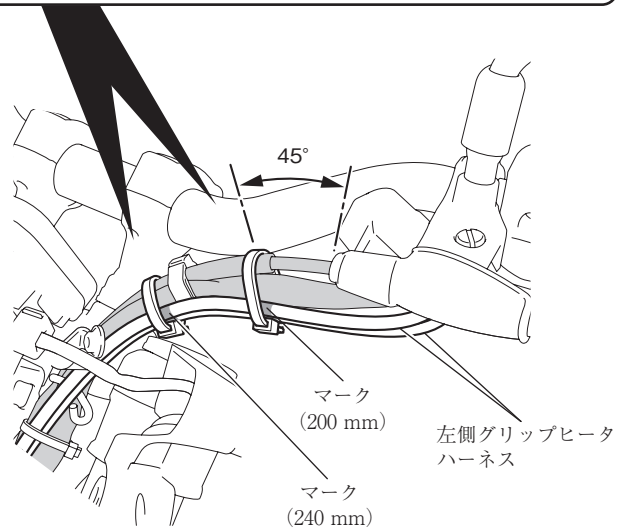
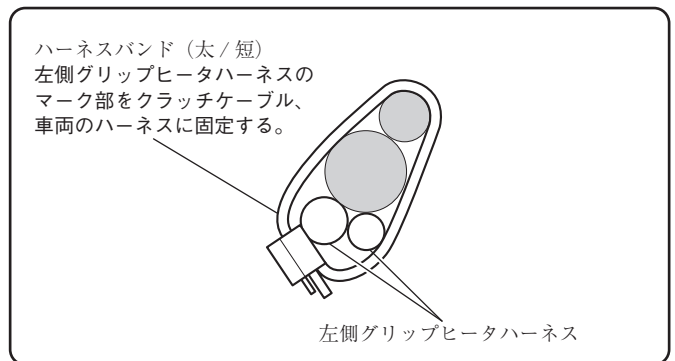
〈左側〉



7) 図のように左右のグリップヒータハーネスをバンドで固定する。



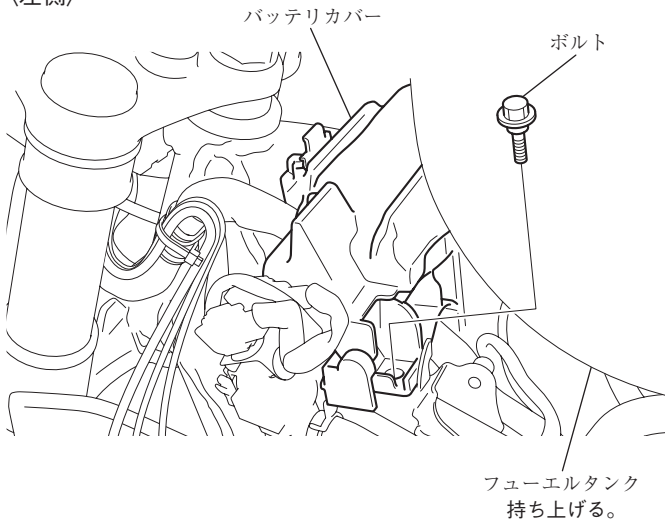
8) 図のように左側グリップヒータハーネスをバンドで固定する。



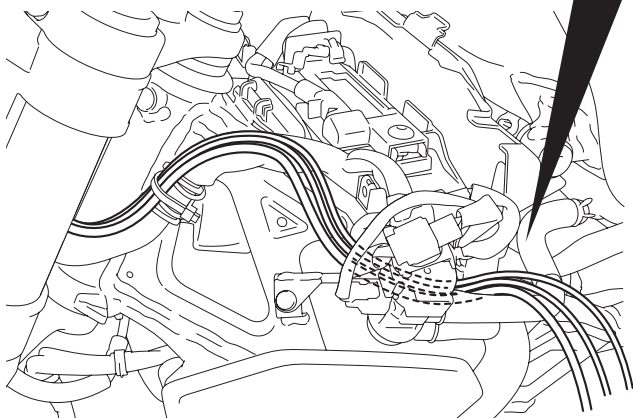
9) フューエルタンクを持ち上げ、バッテリーカバーを閉じて、図のボルトを取り外す。

・右側も同様に取り外してください。

〈左側〉



10) 図のように各ハーネスを取り廻す。

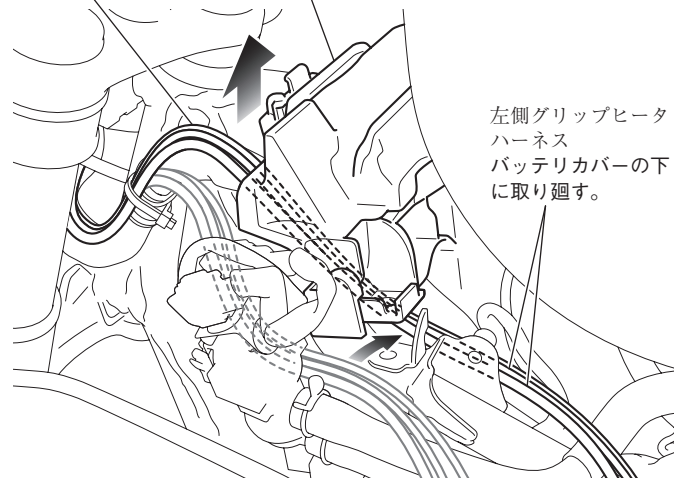


11) 図のようにバッテリーカバーを押し上げて、すき間に各ハーネスを取り廻す。

右側グリップヒータ
ハーネス

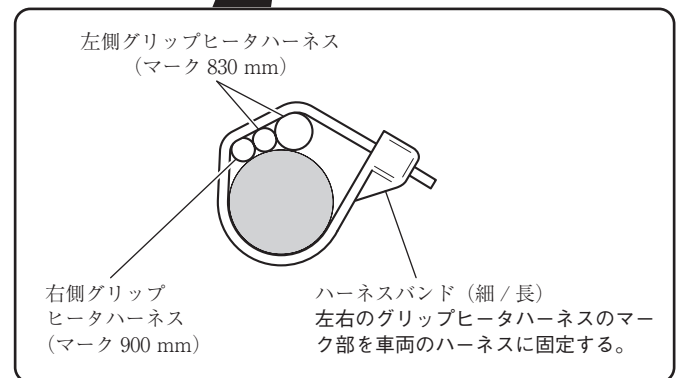
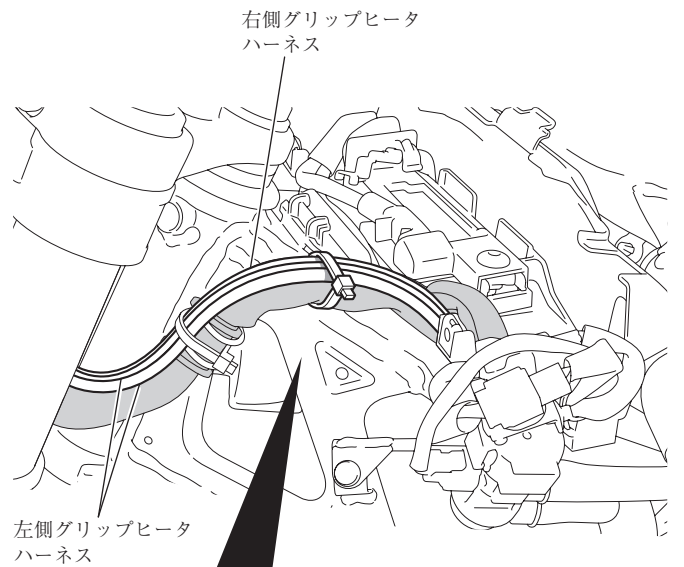
バッテリーカバーの下
に取り廻す。

バッテリーカバー
押し上げる。

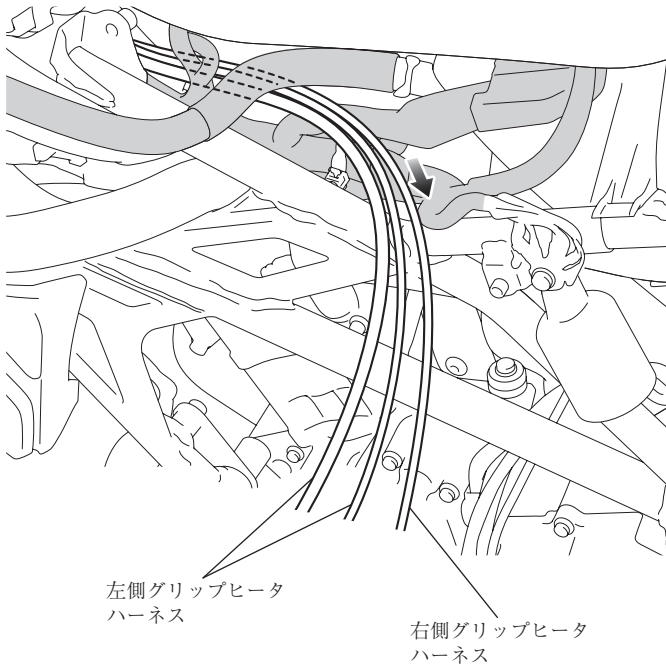


12) 再度バッテリーカバーを開け、持ち上げたフューエルタンクをのせる。

13) 図のように各ハーネスをバンドで固定する。

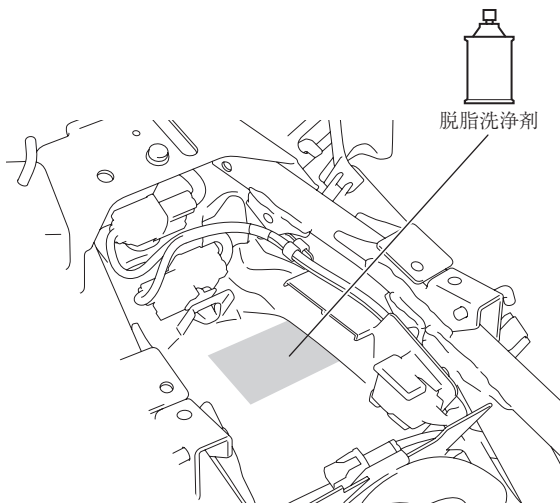


14) 図のように各ハーネスを取り廻す。



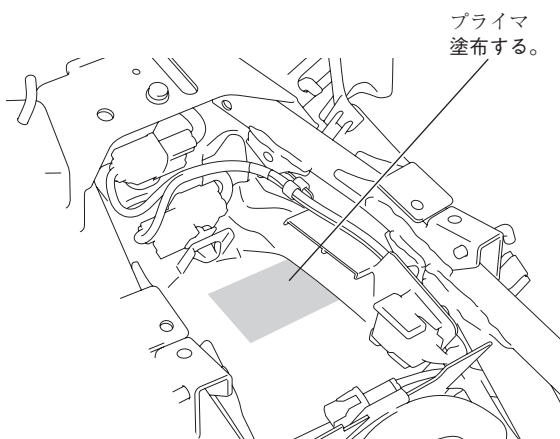
5. ヒータコントローラの取り付け

1) 図の位置を脱脂洗浄する。

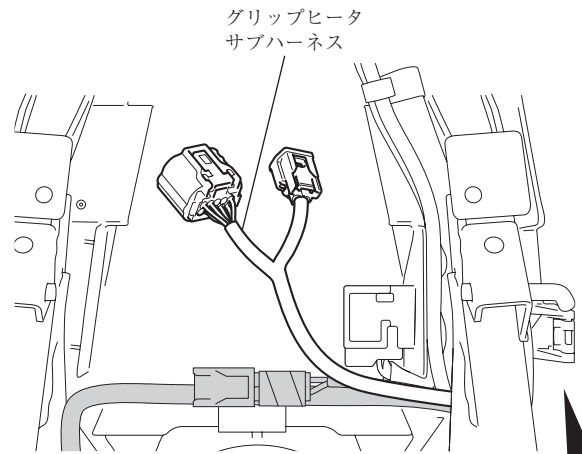


2) 図の位置にプライマを塗布する。

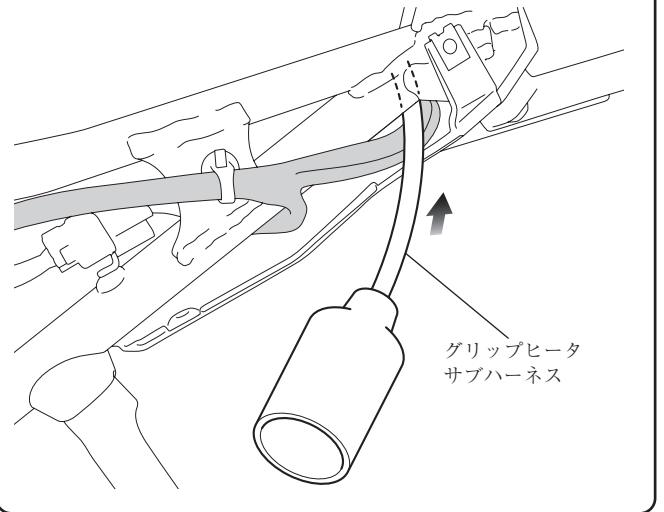
・プライマ塗布後は、少なくとも 10 分間乾燥させてください。



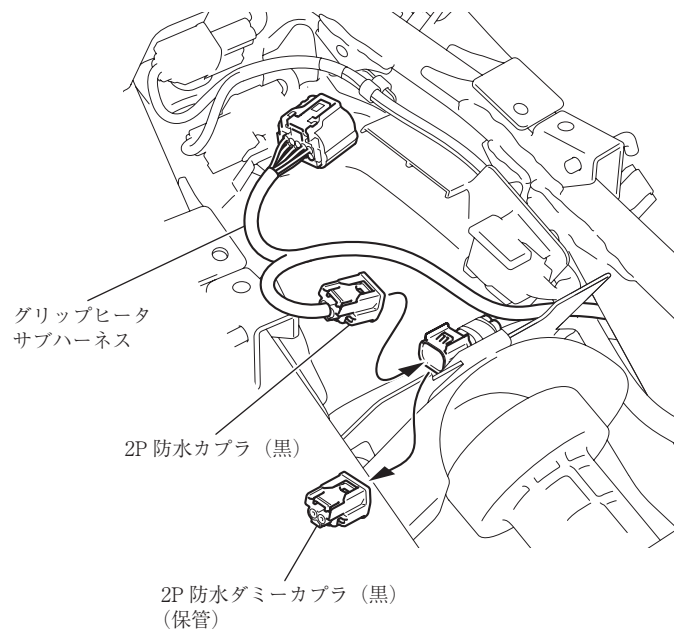
3) 図のようにグリップヒータサブハーネスを取り廻す。



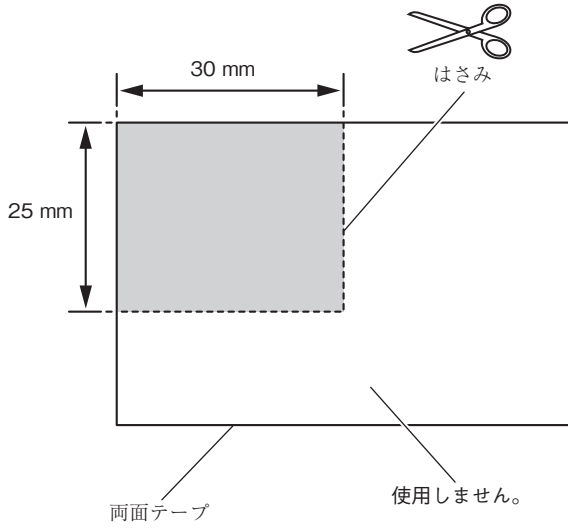
〈左側〉



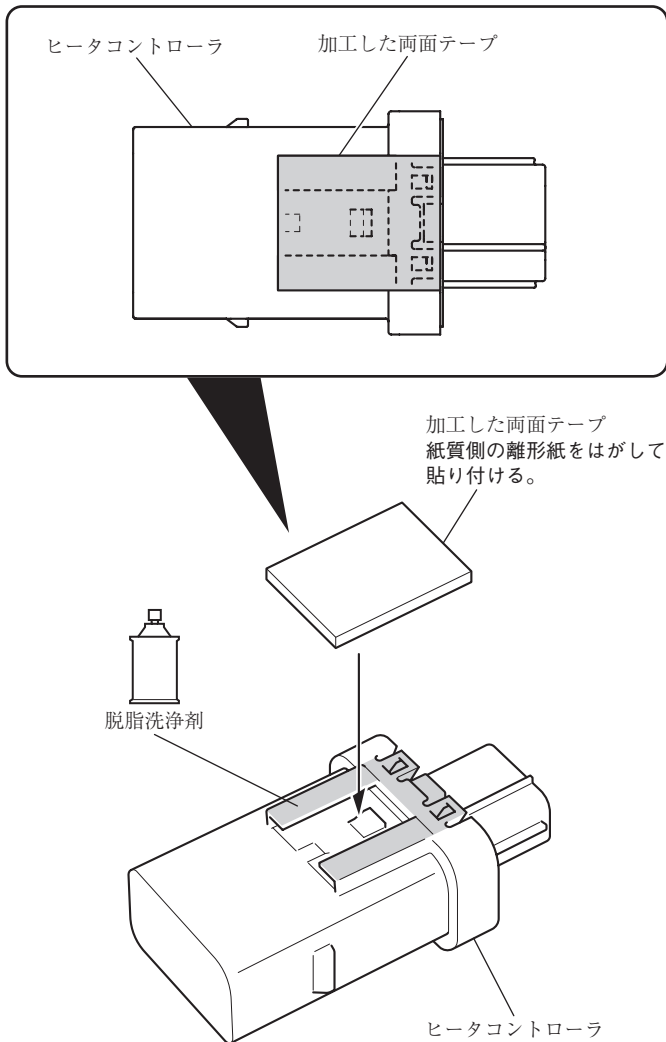
4) 図のようにダミーカプラを取り外し、グリップヒータサブハーネスを接続する。



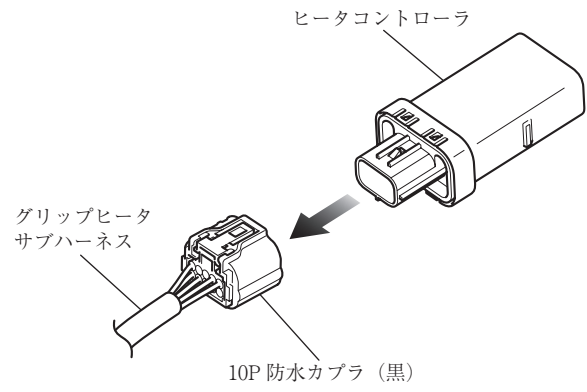
5) 図の寸法で両面テープを加工する。



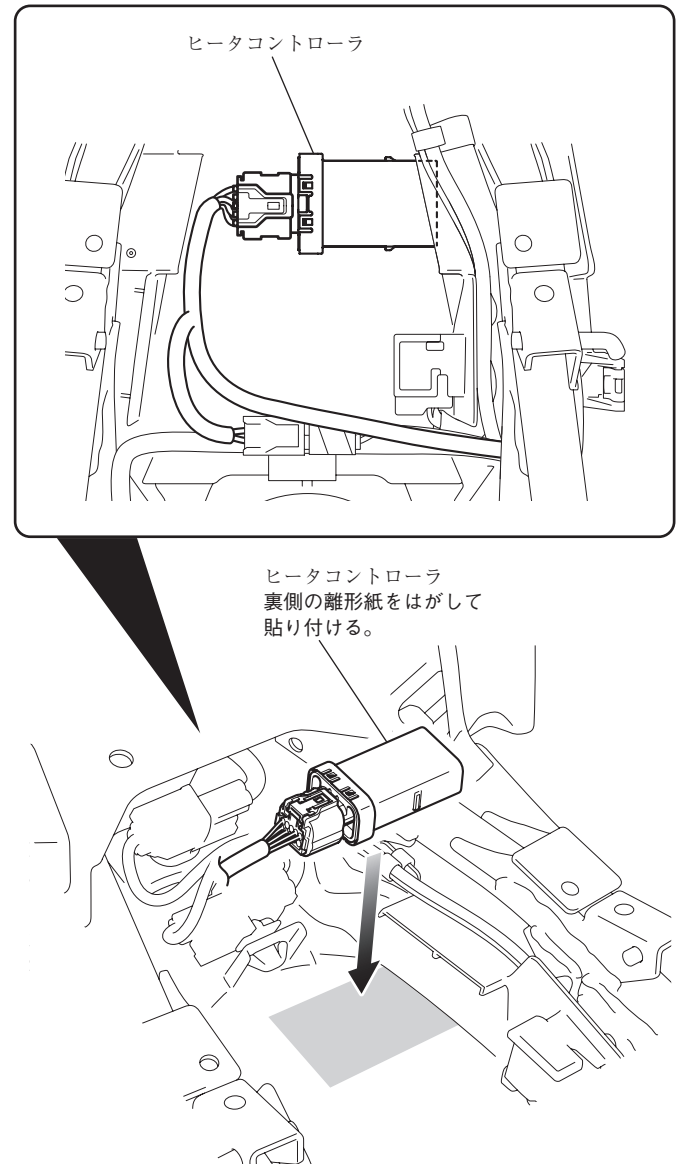
6) 図のように加工した両面テープを取り付ける。



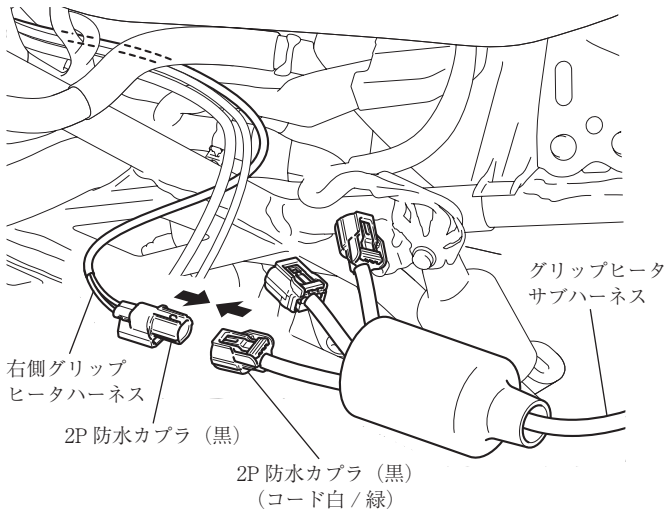
7) 図のようにヒータコントローラを接続する。



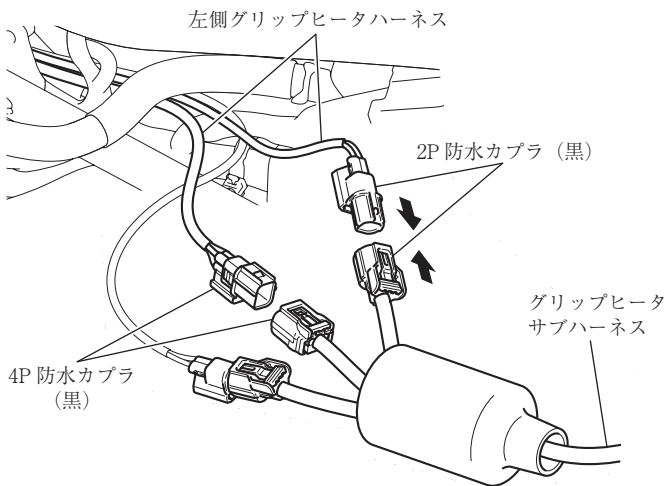
8) 図の位置にヒータコントローラを取り付ける。



9) 図のように右側グリップヒータハーネスを接続する。



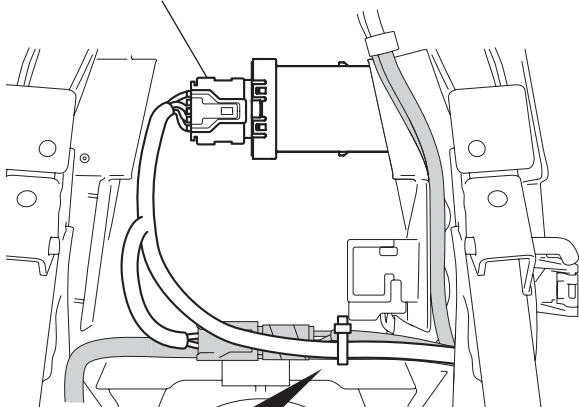
10) 図のように左側グリップヒータハーネスを接続する。



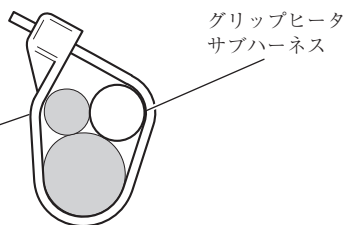
11) 図のようにグリップヒータサブハーネスをバンドで固定する。

- ・アラームまたはイモビアラーム同時装着時はそれぞれの取付説明書を参照してください。

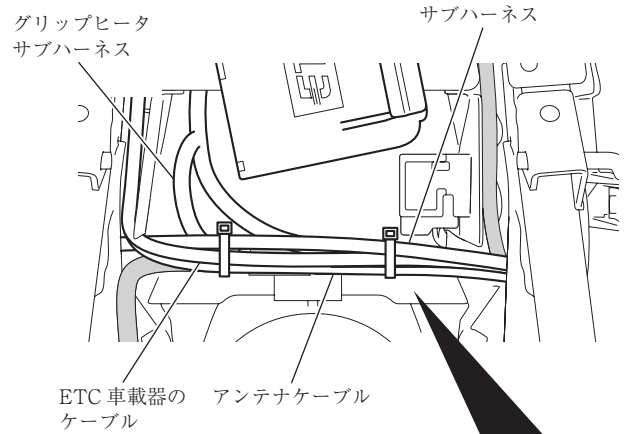
グリップヒータサブハーネス



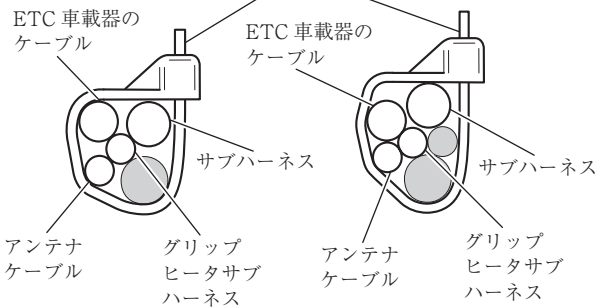
ハーネスバンド (細/長)
グリップヒータサブハーネス
を車両のハーネスに固定する。



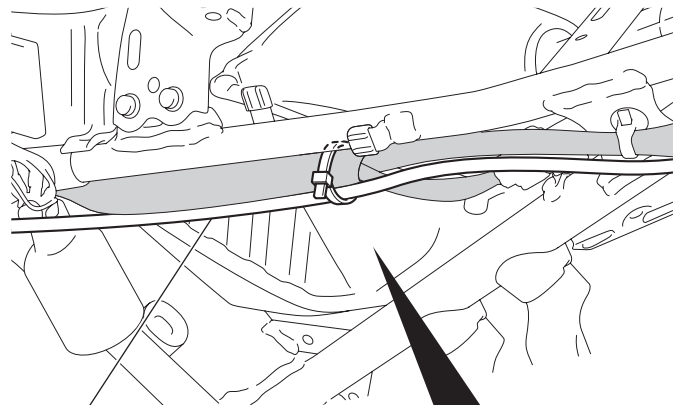
ETC2.0 車載器同時装着時



ハーネスバンド (細/長)
グリップヒータサブハーネス、サブハーネス、
アンテナケーブル、ETC 車載器のケーブルを
車両のハーネスに固定する。

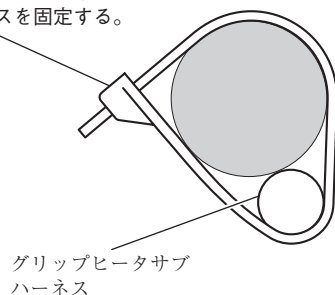


12) 図のようにグリップヒータサブハーネスをバンドで固定する。



グリップヒータサブハーネス

ハーネスバンド (細/短)
グリップヒータサブハーネス
を車両のハーネスを固定する。



13) 図のようにグリップヒータサブハーネスをバンドで固定する。

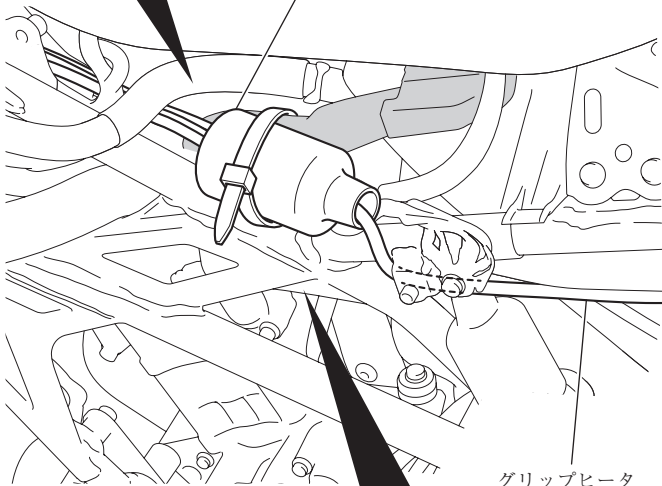
・ハーネスバンドの余った部分はカットしないでください。

余った左右のグリップヒータハーネスを束ね、ハーネスブーツに収める。

左側グリップヒータハーネス

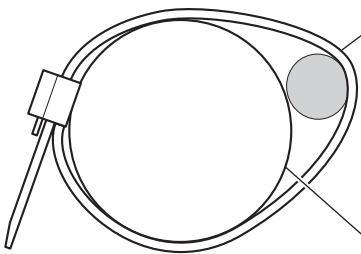
右側グリップヒータハーネス

グリップヒータサブハーネスのハーネスブーツ



グリップヒータサブハーネス

ハーネスバンド (太/長)
グリップヒータサブハーネス
を車両のハーネスを固定する。



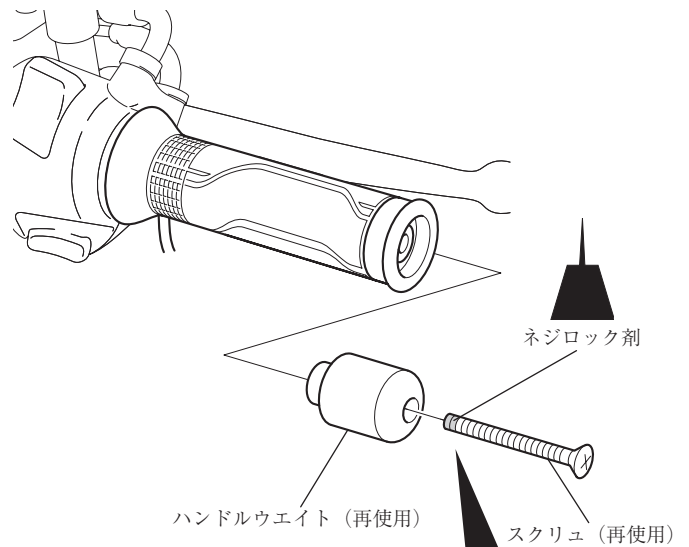
グリップヒータサブハーネスのハーネスブーツ

6. 車両部品の取り付け

1) 図のようにハンドルウエイトを取り付ける。

- ・ネジロック剤を塗布する前に、脱脂洗浄剤できれいにしてください。
- ・必ずねじ部にネジロック剤を使用してください。
- ・左側も同様に取り付けてください。

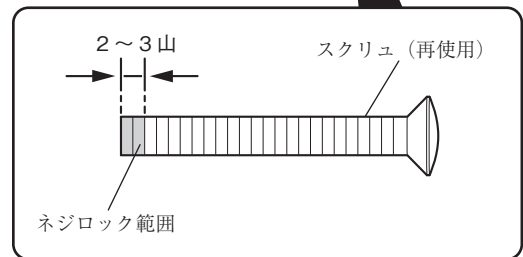
〈右側〉



ハンドルウエイト (再使用)

ネジロック剤

スクリュー (再使用)



2~3山

スクリュー (再使用)

ネジロック範囲

2) 取り外しの逆手順で取り外した車両部品を取り付ける。

- ・各ケーブル、ハーネスのかみ込みがないようにしてください。

7. 取り付け後の確認

1) 各ハーネスの引きつきを確認する。

- ・ハンドルを左右に動かし、ハーネスのかみ込み、引きつきがないことを確認してください。

2) グリップヒータの作動およびスロットルの開閉、ヘッドライトなどの灯火器類の作動について確認する。




- ・左側グリップヒータ取り付け後、1時間以上たってからグリップヒータの作動確認を行ってください。また、そのときにヒータレベルは3以上にしないでください。
- ・グリップヒータの作動確認後、必ずヒータスイッチをOFFにしてください。

お客様へ納車するときに下記内容を必ずお伝えください。

- ・納車から1週間の間にグリップヒータを使用するときは、ヒータレベルを2以下で使用してください。

販売店様故障診断

・グリップヒータに異常がある場合は、グリップヒータスイッチインジケータが以下の表示になる。各表示内容に従い点検を行う。

グリップヒータスイッチインジケータ	確認内容
1 回点滅 	1
2 回点滅 	2, 3, 4, 5
3 回点滅 	
インジケータが点灯しない	

1. バッテリの点検
サービスマニュアルを参照し、バッテリーの点検を行う。
2. コード類（端子、カプラ）の結線は確実に行われているか確認する。
3. グリップヒータの点検
端子間で各グリップヒータの抵抗を測定する。
標準値 右側 8.2 Ω ± 10 %
左側 8.2 Ω ± 10 %
4. ヒータハーネスの点検
配線図を参照し、導通点検を行う。
5. 上記の 2.3.4. の点検で異常がなく、グリップヒータが作動しないときはグリップヒータの交換を行う。
・スイッチは IC 回路が含まれているため通常の点検（導通点検等）での確認は困難です。

配線図

